

目 次

凡 例

序 章 研究対象、問題の所在、本書の構成———1

- I 本書の研究対象 1
- II 問題の所在 2
 - 1 「アメリカの戦争」としてのヴェトナム戦争の実相 2
 - 2 「アメリカの戦争」としてのヴェトナム戦争の歴史的意味 3
- III 本書の研究の視点と研究課題、本書の構成 7
 - 1 「冷戦史」・アメリカ外交史研究の現状と本書における研究の視点 7
 - 2 本書の研究史上の位置と研究課題、本書の構成 8

第1部

「アメリカの戦争」としてのヴェトナム戦争 の実相と「ソンミ虐殺」

第1章 アメリカのヴェトナム軍事介入の特徴と ヴェトナム民間人犠牲の実態———21

- I ヴェトナム民間人の莫大な犠牲の実態 21
 - 1 戦闘員の犠牲者 21
 - 2 ヴェトナムにおける民間人の犠牲者 22
- II 「アメリカの戦争」としてのヴェトナム戦争
——その経緯と戦争政策の特徴 24
 - 1 南ヴェトナムの政治的・軍事的危機と「アメリカの戦争」

への道 24

- 2 ジョンソン政権による軍事戦略——北ヴェトナムに対する爆撃強化と「索敵撃滅」作戦の展開 26

第2章 「アメリカの戦争」の象徴としての「ソンミ虐殺」と南ヴェトナムにおける戦争の実相——35

I 「アメリカの戦争」の象徴としての「ソンミ虐殺」 35

- 1 「ソンミ虐殺」とは 35
- 2 米軍による「索敵撃滅」作戦の帰結としての「ソンミ虐殺」(1)
——米軍の行動様式の観点から 36
- 3 「ソンミ虐殺」の当日(1968年3月16日)の実相 40
- 4 米軍による「索敵撃滅」作戦の帰結としての「ソンミ虐殺」(2)
——指揮命令の観点から 42

II 南ヴェトナムにおける「アメリカの戦争」の実相 44

- 1 Vietnam War Crimes Working Group文書の意義 45
- 2 Vietnam War Crimes Working Group設立の契機と主要内容 47
- 3 Vietnam War Crimes Working Group Files文書が問いかけること 48

第2部

アメリカ国内外における「アメリカの戦争犯罪」告発の展開とその歴史的意義 ——ヴェトナム戦争期における「戦争の克服」の試み

第3章 国際社会における「アメリカの戦争犯罪」 告発の開始——59

——「ラッセル法廷」(ヴェトナム国際戦争犯罪法廷)とジョンソン政権の対応

I 「ラッセル法廷」の歴史的意味と本章の研究史的的位置 59

- 1 「ラッセル法廷」の歴史的意味と本章の課題 59
- 2 「ラッセル法廷」に関する研究状況と本章の研究史的的位置 61

II	「ラッセル法廷」設立までの経緯とジョンソン政権の対応	63
1	ラッセルによる「国際戦争犯罪法廷」の提唱	63
2	ラッセルによるアメリカにおける運動家および知識人との関わり	66
3	「ラッセル法廷」設立に対するジョンソン政権の認識と対応	73
III	「ラッセル法廷」第一回法廷（ストックホルム、1967年5月2日～10日）	75
1	「ラッセル法廷」第一回法廷の審理内容とその特徴	75
2	「ラッセル法廷」第一回法廷に対するジョンソン政権の対応と評価	77
IV	「ラッセル法廷」第二回法廷（コペンハーゲン郊外ロスキレ、1967年11月20日～12月1日）	81
1	「ラッセル法廷」第二回法廷開催にいたる経緯とジョンソン政権の対応	81
2	「ラッセル法廷」第二回法廷	82
3	「ラッセル法廷」第二回法廷に対するジョンソン政権の認識と対応	87
V	「ラッセル法廷」の審理内容に関する歴史的意義とジョンソン政権の対応の全体的特徴	89
1	「ラッセル法廷」の審理内容に関する歴史的意義	89
2	ジョンソン政権の対応の全体的特徴	90
VI	アメリカ世論とアメリカの反戦運動に与えた影響と遺産	91
1	「ラッセル法廷」に対する米兵証言と3名の運動家の貢献	91
2	国際世論・アメリカの世論ならびにアメリカ反戦運動への影響	94

第4章 米国内における「ソンミ虐殺」露見とヴェトナム帰還兵による「戦争犯罪」告発——110—— ——「全米帰還兵調査会」から「冬の兵士」調査会へ

I	ヴェトナム反戦運動の展開と「戦争に反対するヴェトナム帰還兵の会」(VVAW)の結成	114
---	---	-----

1	ヴェトナム反戦運動の展開	114
2	「戦争に反対するヴェトナム帰還兵の会」(VVAW)の結成 とその後の組織的發展	115
II	「ソンミ虐殺」露見の経緯とアメリカ社会への波紋	116
1	「ソンミ虐殺」露見の経緯	116
2	「ソンミ虐殺」露見直後のアメリカ社会への波紋	119
III	米国内における「戦争犯罪」告発への胎動	122
1	民間人大量殺りくの現実への着眼	122
2	「ヴェトナムにおけるアメリカの戦争犯罪市民調査会」 の設立	123
3	CCIの活動の展開とVVAWによる「冬の兵士」調査会 開催の準備へ	125
4	「冬の兵士」調査会開催にいたる歴史的経緯と国際的 連携・影響	130
IV	「冬の兵士」調査会開催と反戦帰還兵による戦争の道義性 に対する問いかけ	133
1	「冬の兵士」調査会開催とその目的	133
2	「冬の兵士」調査会における証言の構成とその特徴	136
3	ヴェトナム帰還兵の問いかけ	137
4	「冬の兵士」調査会の歴史的意義	142
5	「冬の兵士」調査会後における証言集会の展開とVVAWの 組織的發展	148

第5章 1971年半ば以降におけるVVAWによる「アメリカの戦争犯罪」告発の国際的活動の展開とニクソン政権の対応——164

I	「国際戦争犯罪調査委員会」第二回審理集会とVVAWの 参加	166
1	ラッセル法廷以後の「新国際法廷」としての「国際戦争犯 罪調査委員会」の設立	166
2	VVAWメンバーのヨーロッパ諸国訪問と「国際戦争犯罪 調査委員会」第二回審理集会への参加	170
II	VVAWメンバーの北ヴェトナム訪問(1971年～1972年)	176
1	ジョー・アルゴーのハノイ訪問	176

2	バリー・ロモの北ヴェトナム訪問	178
Ⅲ	1972年後半から1973年におけるVVAWの国際連帯活動の 継続	180
1	「国際戦争犯罪調査委員会」第三回審理集会	180
2	「ヴェトナムに関する緊急国際会議」	183
3	「原水爆禁止世界大会」	184
Ⅳ	ニクソン政権の対応と戦争の道義性批判の弱体化	187
1	ニクソン政権による反戦運動に対する監視強化、戦争批 判鎮静化の試み	188
2	反戦運動の帰趨とカーリー中尉裁判	190

第3部

ヴェトナム戦争後における「ヴェトナムの記憶」と「戦争の克服」をめぐる諸相

第6章	ヴェトナム戦争後の米国におけるヴェトナム 戦争の記憶	203
	——「加害」の記憶の封印・忘却と継承の相剋	
Ⅰ	ヴェトナム戦争後における「ヴェトナムの記憶」の変遷(1) ——カーター政権からレーガン政権まで(1977年～1989年)	204
1	カーター政権と「ヴェトナムの記憶」	204
2	レーガン政権と「ヴェトナムの記憶」	206
Ⅱ	ジョージ・H.W.ブッシュ政権の時代(1989年～1993年)に おける「ヴェトナムの記憶」	209
1	「ヴェトナムの亡霊との戦い」としての湾岸戦争	209
2	「ヴェトナムの亡霊との戦い」の限界と「加害」の側面 への着眼	211
Ⅲ	クリントン政権時代(1993年～2001年)——ソマリア内戦・ ボスニア紛争・コソヴォ紛争への対応と「ヴェトナムの記憶」	212
1	ソマリア内戦・ボスニア紛争・コソヴォ紛争への対応	212

- 2 米越国交樹立・クリントン大統領のヴェトナム訪問 213
- 3 1990年代における「加害」／「他者」への視点継承の試み 214

IV G.W.ブッシュ政権によるアフガニスタン空爆の開始と「他者」の戦争犠牲への眼差し 215

- 1 G.W.ブッシュ政権によるアフガニスタン空爆の開始と「ヴェトナムの記憶」 215
- 2 「他者」の戦争犠牲者への着眼——「未来の平和のための9.11犠牲者遺族」の活動 217
- 3 ヴェトナム枯れ葉剤被害者による損害賠償訴訟とアメリカ政府の対応 217

第7章 「マディソン・クエーカーズ」(Madison Quakers, Inc.)プロジェクト(1)——224 ——ヴェトナム民衆を対象とする「戦争の克服」と「和解・共生」

I 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの位置 225

- 1 ヴェトナム帰還兵によるヴェトナム民衆を対象とする「和解・共生」活動の始まり 225
- 2 「ヴェトナム友好村」の開設 227
- 3 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの性格とその特徴 228

II 「マディソン・クエーカーズ」設立の経緯 231

- 1 マイク・ベイムのヴェトナム戦争従軍体験とそのトラウマの克服 231
- 2 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの開始へ 239

III 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの内容 241

- 1 「少額無担保融資」プログラム 241
- 2 「ミライ平和公園」の建設 243
- 3 「小学校支援」プログラム 252
- 4 「絵を通した文通」プログラムとグリーティング・カード作成 253
- 5 「思いやりの家」プログラム 255
- 6 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの現在 258

第8章 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクト(2)——268 ——アメリカ・ヴェトナム両国の枠を越えた「和解・共生」への普遍的試み

- I 「女性の出会い」(Sisters Meeting Sisters) プログラムの
構想 269
 - 1 「女性の出会い」プログラムが構想される契機 269
 - 2 「女性の出会い」プログラムの実施準備へ 270
- II 「ソンミ虐殺」40周年(2008年)における取り組み
——「ソンミ」と「ヒロシマ・ナガサキ」 273
 - 1 広島と長崎の被爆者の旧ソンミ村招聘への契機 273
 - 2 「ソンミ虐殺」40周年記念式典開催とその特徴 274
 - 3 「ソンミ虐殺」40周年における被爆者によるソンミ訪問の
意義 279
- III 「マディソン・クエーカーズ」プロジェクトの意義 283

終章 「終わりなき」ヴェトナム戦争——289 ——ヴェトナム帰還兵による「アメリカの戦争犯罪」告発の 遺産と「ソンミ虐殺」をめぐる記憶継承、「マディソン・ クエーカーズ」プロジェクトの今日的可能性

- I 「ヴェトナム」から「アフガニスタン・イラク」へ 291
 - 1 アフガニスタンとイラクに関する「冬の兵士」公聴会開催
の意義 291
 - 2 ヴェトナムにおける「アメリカの戦争犯罪」告発が提起し
た問題を問い続ける意味 294
- II 「ソンミ」を媒介にした「戦争の克服」、「和解・共生」を
めぐる今後の可能性 297
 - 1 「ソンミ虐殺」をめぐる記憶継承——困難さと可能性 297
 - 2 「マディソン・クエーカーズ」の活動の今日的可能性 300

あとがき 309

史料・文献目録 325

人名索引 347

事項索引 349